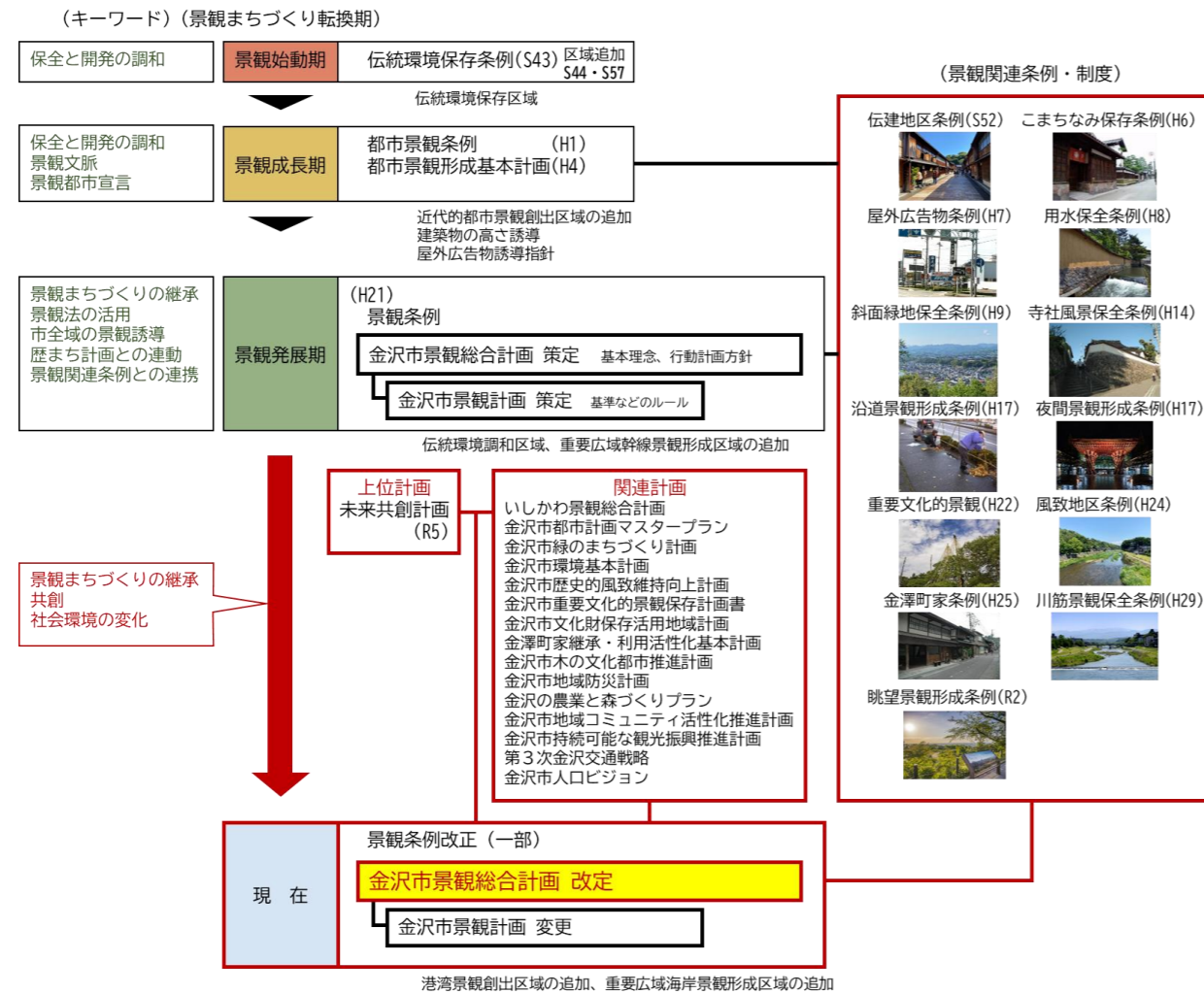


# 金沢市景観総合計画改定の骨子案について

## 1 金沢市景観総合計画の位置づけ

本市は、伝統環境保存条例を制定した昭和43年(1968)以来、「保全と開発の調和」というまちづくりの規範を継承し、一貫した景観まちづくりを進めています。

「金沢市景観総合計画」は、本市の景観に関する最上位計画であり、景観まちづくりの**基本理念**をはじめ、これまで取り組んできた景観施策を網羅した、**長期的かつ包括的な行動指針**として、平成21(2009)年に策定されました。**金沢の都市景観を歴史や文化に根ざした資産として再構築し、未来へ継承するための枠組みを示すものです。**また、具体的な指定区域や基準等を定めた「金沢市景観計画」と役割を分担しつつ、相互に補完しあうことにより、本市の景観行政を総合的に支える基盤となっています。



【景観総合計画の位置付けと上位・関連計画等の体系図】

## 3 良好な景観形成の基本理念

良好な景観形成の基本理念を堅持し、現代の課題に応える景観まちづくりを実践します。

1. 特色ある自然・風土を保全した景観形成
2. 歴史的資産を継承した景観形成
3. 地域の時間と暮らしに根ざした景観形成

金沢の原風景である自然・風土を守り、地形と地域の歴史的・空間的なつながりを深く読み解く。  
歴史的資産を点と面で保全・活用するとともに、地域の物語性を継承し、金沢らしい景観を次世代へつなぐ。  
市民の共感と共有を基盤とし、地域の生活・生業や文化的な価値観に根ざした『生きた景観』を共に育む。

## 2 今回の改定の趣旨

「金沢市景観総合計画（第1期）」策定から15年以上が経過しており、本市を取り巻く社会環境等が大きく変化していることや、景観に対する市民等の意識醸成が進んできたこと等を踏まえ、以下3つを改定の趣旨とし、今後10年、20年先を見据えた景観まちづくりの方向性等の充実・強化を図ります。

### 1) 基本理念の堅持

良好な景観形成の基本理念を堅持し、現代の課題に対応した景観まちづくりを実践することが重要です。

### 2) 景観まちづくりの創造的継承

近年の社会情勢の変化等により新たな課題が顕在化する中、これまで培ってきた本市の景観の個性と魅力を磨き高めていくためには、景観まちづくりの思想や理念を継承していくとともに、関連制度等との連携の強化をはじめとした創造的な取組が重要です。

### 3) 市民等との協働の深化

これまでも市民等との協働によるまちづくりが進められてきましたが、今後さらに美しく、魅力ある景観を創り上げていくためには、行政と市民のほか、あらゆる人々・企業・組織等、多様な主体が共に取組を進めていくことが必要であり、これまでの“協働”をより深化させていくことが重要です。

#### 【これまでの主な成果（H21年度～）】

<p><b>&lt; 価値づけ &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 卯辰山麓伝建地区、寺町台伝建地区の国選定</li> <li>● 重要文化的景観の国選定</li> <li>● 長町景観地区の指定など</li> </ul>	<p><b>&lt; ルールづくり &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伝建地区や景観地区の町並み保存のルールづくり</li> <li>● 特定屋内広告物の規制の新設</li> <li>● 川筋景観保全条例の制定など</li> </ul>
<p><b>&lt; 協働によるまちづくり &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民会議</li> <li>● 景観サポーター</li> <li>● かなざわ景観協力賞など</li> </ul>	<p><b>&lt; 魅力発信 &gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 眺望点の整備</li> <li>● 夜間景観ライトアップ整備</li> <li>● 冬の風物詩魅力発信動画など</li> </ul>



卯辰山麓伝建地区



川筋景観の保全



景観を考える市民会議



夜間景観ライトアップ整備

## 4 景観目標像

「金沢市景観総合計画（第1期）」で示された金沢の景観特性を継承しつつ、本市の最上位計画である「未来共創計画」との関係性を強化し、魅力ある景観形成に向けた目標を掲げます。

【現在】

風格と魅力を兼ね備えた美しい世界都市・金沢

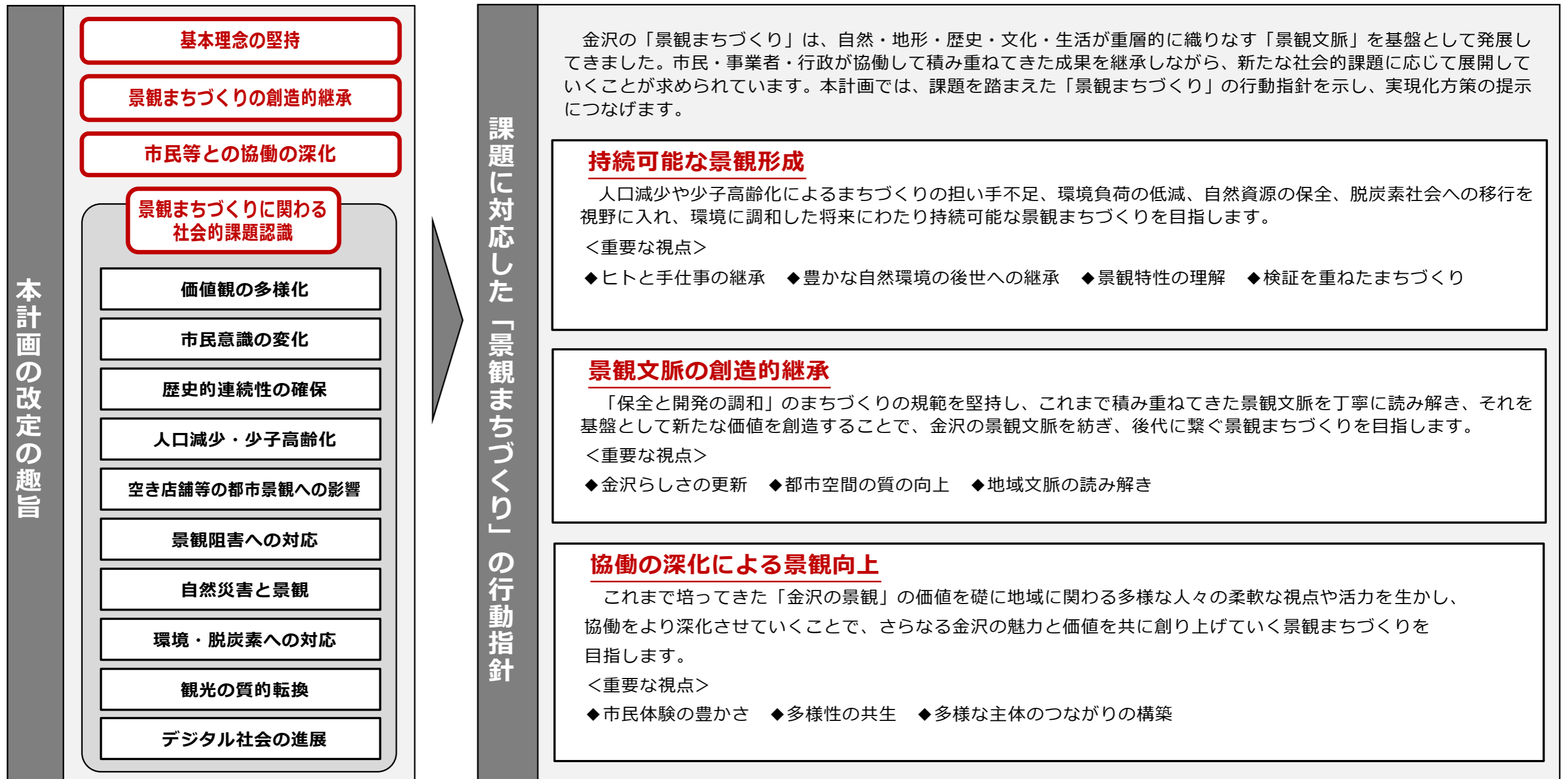


【変更案】

品格と風格を兼ね備えた、世界に誇る共創文化都市・金沢

## 5 景観まちづくりの行動指針

基本理念を堅持し、良好な景観形成を具体的に進めていくためには、市民・事業者・行政が主体となって取り組む「景観まちづくり」の実践が不可欠です。社会情勢が激しく変化する現代において、これまでの「景観文脈」を尊重しながら、現代的な課題に柔軟かつ的確に対応するための「景観まちづくり」の行動指針を以下のとおり提示します。



## 6 景観まちづくりの実現に向けて

景観まちづくりの実現化方策を以下のとおり整理します。実現化方策については、「金沢市景観総合計画（第1期）」で掲げた行動計画における体系を更新し、新たな視点を追加します。

景観まちづくりの実現化方策		課題に対応した「景観まちづくり」の行動指針		
		持続可能な 景観形成	景観文脈の 創造的継承	協働の深化 による景観向上
<b>■ 良好な景観形成を図るための景観エリアマネジメント</b> 金沢の景観を将来にわたり色褪せることなく、つなげていくためには、保全と開発の調和のまちづくりを堅持しつつ、新たな価値を創造する必要があります。 そのためには、各区域における景観文脈を読み解き、将来にどのようにつないでいくかの景観像を市民・事業者・専門家・行政が共有する必要があります。 よりきめ細やかな景観まちづくりを進めるために、景観エリアマネジメントの仕組みを構築します。	● 都心軸エリアマネジメント		○	
	● 景観形成方針の見える化	○	○	○
	● エリアマネジメント専門家派遣制度			○
	● 景観文脈の連続性に関わる研究の促進		○	
	● 景観計画の手引きの改定	○	○	○
	● 景観計画の変更	○	○	
<b>■ 魅力的な公共空間を創出するための公共事業展開</b> 公園、図書館、学校、スポーツ施設、駅などの拠点施設における魅力的な公共空間は、周辺のまちの価値を高める存在となります。景観文脈を捉え、金沢らしさを更新するためのプロセスを形成する仕組みを構築します。	● 魅力ある景観資源を活かした回遊性の向上	○	○	○
	● 公共空間における景観文脈の読み解き	○	○	
	● 都市・景観・文化プロデュースの仕組み	○	○	○
<b>■ 関連施策との連携と効果の検証を重ねた景観まちづくり</b> 都市計画、自然環境、ゼロカーボン、農業施策などの関連施策に【景観まちづくり】の視点を加えることで、新たな価値の創出などの相乗効果が期待できます。また、景観まちづくりの効果検証を繰り返して行い、施策や取り組みの改善と発展に努めます。	● 関連制度との連携による相乗効果の実現	○		○
	● 市職員の景観まちづくり継承	○		
	● 景観まちづくりの効果の検証の仕組みづくり	○		
<b>■ 多様な主体が活躍できる景観まちづくり</b> 金沢の景観の魅力は人々の営みが基盤となる文化的景観です。人々が繋げてきた営みこそが景観特性であり、持続可能な景観形成に欠かすことができません。 市民・事業者・専門家・行政などの多様な主体が景観像を共有し、共感する仕組みの構築や継続した取り組みを実施します。	● 金沢らしさの体験：景観学習、散策イベントの実施	○	○	○
	● 市民から始まる景観まちづくり	○		○
	● 金沢らしさを考える継続した取り組み		○	○
	● 都市美文化賞の深化		○	○
	● 景観サポーター制度の深化	○	○	○
	● かなざわ景観協力賞の深化	○	○	○
	● 広告景観協力賞の深化		○	○
	● 金沢の景観をつくる手仕事の継承	○	○	○
	● まちづくりの人材創出	○		○
● 協定制度の活用			○	
<b>■ 景観に纏わる人づくり</b> 「持続可能な景観形成」、「景観文脈の創造的継承」、「協働の深化による景観向上」には、適材適所の人材が不可欠あり、人づくりの仕組みを構築します。	● エリアマネジメント専門家の確保			○
	● 景観サポーター制度等の深化（再掲）	○	○	○
	● かなざわ景観協力賞の深化（再掲）	○	○	○
	● 金沢の景観をつくる手仕事の継承（再掲）	○	○	○
	● まちづくりの人材創出（再掲）	○		○